

## 第5回 医療系大学のための 教学IRセミナー を開催しました

開会挨拶  
獨協医科大学教学IRセンター(幹事校)  
大阪医科大学IR室 平林秀樹 センター長  
佐野浩一 IR室長

### 講演② 神奈川県立保健福祉大学における実践事例 - 教学IRを“現場”で活用する -

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部(教学IR担当) 井上一成 助教



IR導入時の活動事例として、神奈川県立保健福祉大学における教学IR立ち上げの経緯、着任してから半年間でのデータ収集、分析、アウトプットのフィードバック等の状況、今後の展望について、具体例を交えてご発表いただきました。

### 特別講演 医療系大学の内部質保証に繋げる教学IR 大学改革支援・学位授与機構研究開発部 嵐田敏行教授



内部質保証を意識した教学マネジメントのためにIR担当者ができることはなにか、それを検証するための9つの観点(目的目標、評価の枠組みの設計、組織運営、政策・法令・社会ニーズ、人材運用、FD展開、教職員の意識改革、仕組みの点検、情報マネジメント)についてご講演いただきました。

このセミナーの初回開催時には医学部教員が参加者の8割を占めていたのですが、今回は医学部以外の医療系とその他の学部の参加者が6割に達し、事務職員の参加も半数にまで増えました。IR担当経験年数では3年以上の割合が増えましたが、半数は3年未満(未経験者含む)であり、内部質保証制度の浸透とともにIRに取り組む大学がいまも増えていることが窺えます。次回のセミナーでは分析結果の活用によって実際どのような教学改善が可能か、具体的な事例を共有し、議論できるテーマでの開催を考えています。

第5回セミナーの報告は以下のサイトでご覧いただけます。  
<https://www.ompu.ac.jp/class/dr46sf000000ry3r.html>

大阪医科大学IR室は、医療系大学を中心としたIR活動の相互啓発とIRの理論・方法の普及を目的として、毎年、獨協医科大学教学IRセンターと合同で「医療系大学のための教学IRセミナー」を開催しています。第5回となる今年は東京都港区の会場とオンラインでのハイブリッド形式で9月26日(金)と27日(土)の2日間にわたり開催され、第1日目117名(会場参加15名)、第2日目16名(会場ワークショップのみ)の参加がありました。

### テーマ 教学IRで内部質保証の基礎を固める

#### 講演① 獨協医科大学における実践事例 - アンケート調査から教育改善まで -

獨協医科大学教学IRセンター 山岸秀嗣准教授



獨協医科大学教学IRセンターの学内の組織的位置づけ、調査活動(外部テスト、卒業生調査)の事例、調査結果の分析・提案・情報提供の流れについての説明があり、実際に教学IRデータから教育改善につなげた実例も紹介していただきました。

#### 講演③ 医療系大学における学生情報の取扱いと個人情報保護法 なんもり法律事務所 南和行弁護士



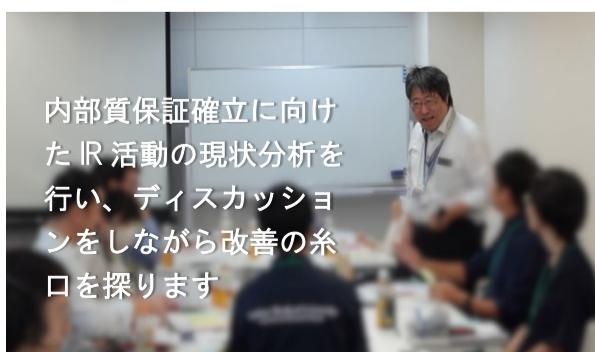
弁護士のお立場から、個人情報保護法の主旨と内容の解説のあと、大学における業務として教職員が学生情報を扱う際に注意すべき点や実際に起こり得る訴訟リスクをご教授いただき、参加者からの具体的な質問にもお答えいただきました。

講演終了後には総合討論が行われ、限られた時間ではありましたが、内容の理解を深める議論が行われました。

#### 第2日目 ワークショップ

①内部質保証の全体像を把握する 大学改革支援・学位授与機構研究開発部 嵐田敏行教授

②学生調査を活用した教学IR  
(学生調査の結果に基づく分析・解釈と資料作成) 大阪医科大学IR室 梶澤健史講師  
宮崎誠教授



内部質保証確立に向けたIR活動の現状分析を行い、ディスカッションをしながら改善の糸口を探ります



公開されている学生調査を比較分析する方法と推論について検討しています

# 学生の学びと暮らし

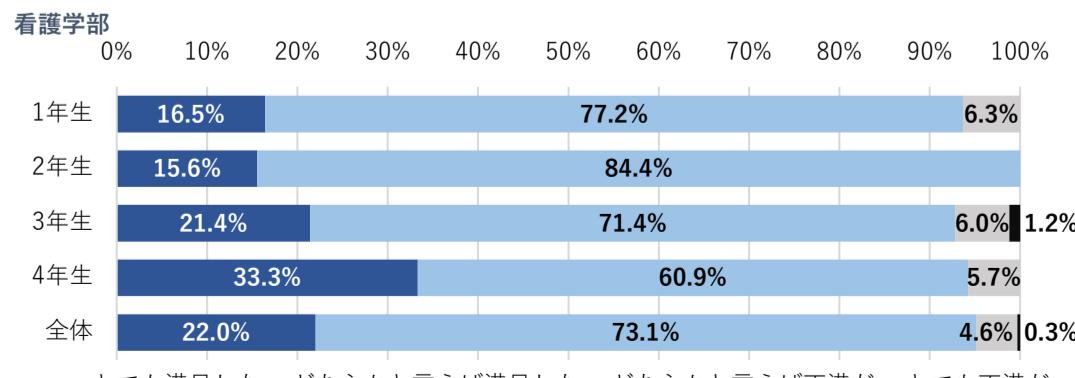
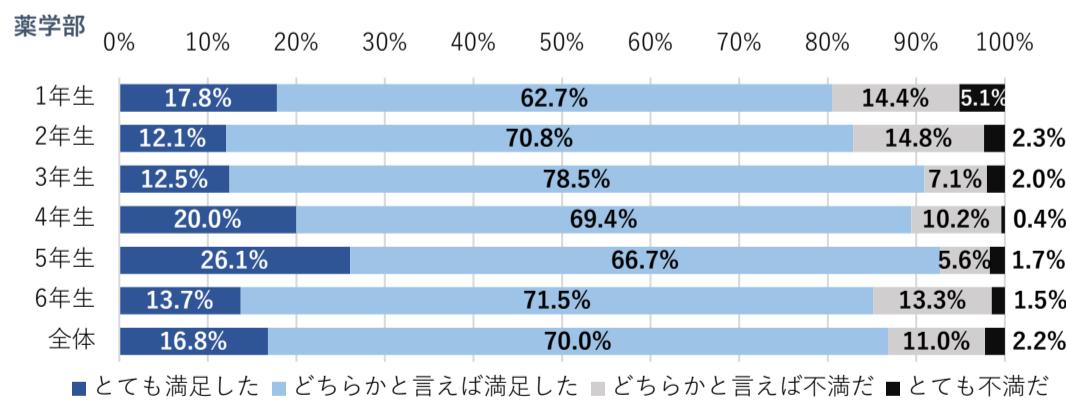
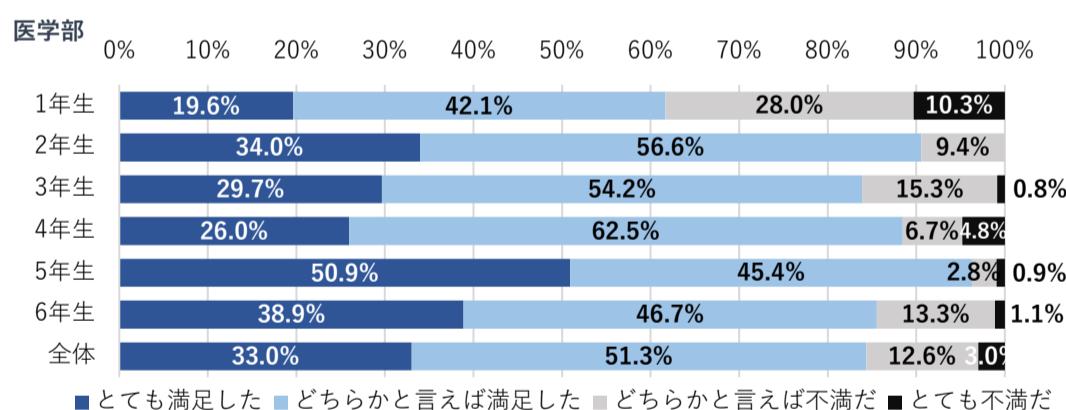
2024年度に実施された学生調査をもとにした「キャンパスライフ・レポート2024」が発刊され、大学ホームページにて公開されました。レポートは3部構成となっていて、第Ⅰ部「学修実態」では授業や自習などの状況や自己評価・満足度、第Ⅱ部「学生生活」では健康を含む生活状況、課外活動の実態、大学施設利用の状況や満足度、第Ⅲ部では大学への印象や総合的な大学生活の満足度の調査結果が記されています。ここでは、「キャンパスライフ・レポート2024」から医学部・薬学部・看護学部それぞれのキャンパスにおける学生の学びと暮らしの様子がわかる項目を抜粋して、こうした結果を大学が教育改善のために活用するポイントとあわせて紹介します。

## 授業カリキュラムの満足度

大学が提供する教育の質は、学生の成績や国家試験の結果といった学修成果により客観的に評価可能です。しかし、学修者本位の大学教育への政策転換により、学生自身が学修成果をどのように認識しているかという観点での評価も、いまの大学には求められています。この学生目線の評価においては、学部ごとに定めているディプロマポリシー（卒業までに身につけるべき能力や資質の目標・基準）に対する到達度の自己評価と、授業カリキュラム（教育目標達成のための授業編成）に対する満足度が鍵になります。ここで取り上げる「授業カリキュラムの満足度」は、大学・学部が提供する正課活動への評価であると同時に、学生の意見を反映した形で授業カリキュラムの妥当性を検証し、よりよい授業編成にするための参考情報となります。

## 大阪医科大学 学生調査

大阪医科大学では、2021年度の大学統合以降、3学部共通で在学生の学修と生活に関する実態ならびに意識の調査を毎年度、実施しています。調査主体はIR室・教育機構・学生生活支援機構であり、IR室は調査票の作成、回答データの集計と分析を担当しています。IR室による分析結果は各学部の教育センターと学生生活支援センターに提出され、学部ごとの自己点検・評価、さらにはその結果に基づく全学の点検・評価の検証資料として活用されています。また同時にIR室では3学部の調査結果をひとつにまとめた「キャンパスライフ・レポート」を編集、発刊して、学生・教職員に配布するとともに、大学ホームページにて公開しています。



授業カリキュラムの満足度を学部ごとにみると、医学部全体では「とても満足した」が33.0%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると84.3%が満足したと回答しています。「とても満足した」の割合がもっとも高いことが医学部の特徴となっています。

薬学部全体では「とても満足した」が16.8%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると86.8%が満足したと回答しています。

看護学部全体では「とても満足した」が22.0%、「どちらかと言えば満足した」をあわせると95.1%が満足したと回答しています。比較的満足している割合がもっとも高いことが看護学部の特徴です。

全体的には3学部とも授業カリキュラムに対する不満の割合は低く、比較的満足している学生が多数です。

## 授業評価アンケートとは何が違う？

本学では授業改善に役立てるため科目ごとに授業評価アンケートを実施しています。すると、このアンケートの満足度を点数化して全体の平均値を出せばカリキュラムの評価にも使えそうな気もします。しかし、それだと個々の授業には満足しても学期全体では授業数が多くて勉強が追いつかない、あるいは逆に物足りないといった学生の意見が反映されません。科目数や科目配当の順番が適切なのかを正しく検証し、授業編成のさらなる改善を目指すためには、カリキュラム自体に対する学生の評価として満足度を把握することが必要なのです。

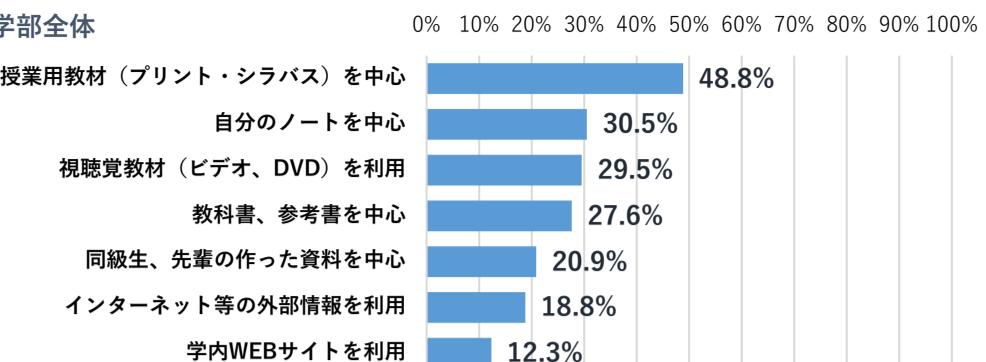
## 授業以外の学習方法

学生調査では、教室では把握が難しい学生の授業外での学習時間・学習方法について尋ねることで、総合的に学生の学習状況を把握し、客観的な学修成果と合わせて適切な課題設定や学習方法の指導・支援を検討できるようにしています。ここでは、急速にデジタル化が進む状況下において大学で進められている「教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）」に関して、学習方法（教材）のデジタル化の実態を把握するために用いる「授業以外の学習方法」を紹介します。

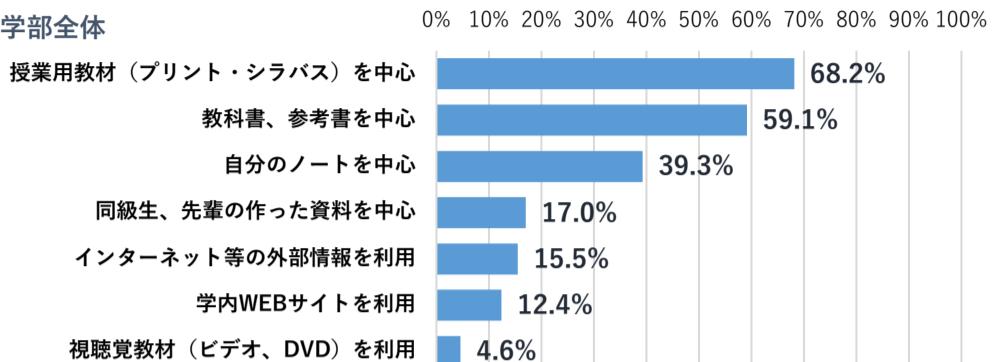
授業以外の学習方法については、選択肢のなかから当てはまるものをすべて選ぶ複数回答式の結果ですので、使用するツールごとの学生の利用率がわかり、学部別に学習方法（教材）のデジタル化の度合いを推し量る手がかりとなります。すべての学部でもっとも利用率が高いのは「授業用教材（プリント・シラバス）を中心」です。ただし、薬学部と看護学部が70%であるのに対して、医学部では50%に留まっています。医学部では他学部よりも「教科書・参考書」の利用率も低く、その分、「視聴覚教材」の利用率が30%と他学部より高いのが特徴です。教材のデジタル化はやや医学部が先行していると言えるかもしれません。

教育 DX の詳細については、以下の文科省のサイトをご参照ください。  
政策について [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/data\\_00008.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00008.htm)  
具体例など <https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

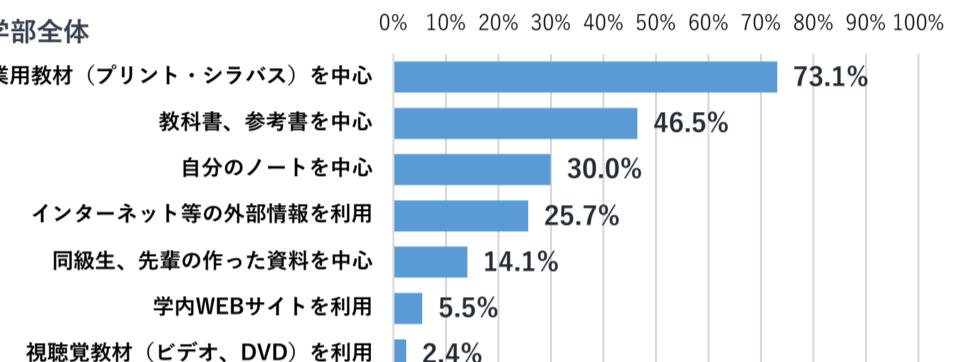
医学部全体



薬学部全体



看護学部全体



## 「Society 5.0」に向けた大学の教育 DX

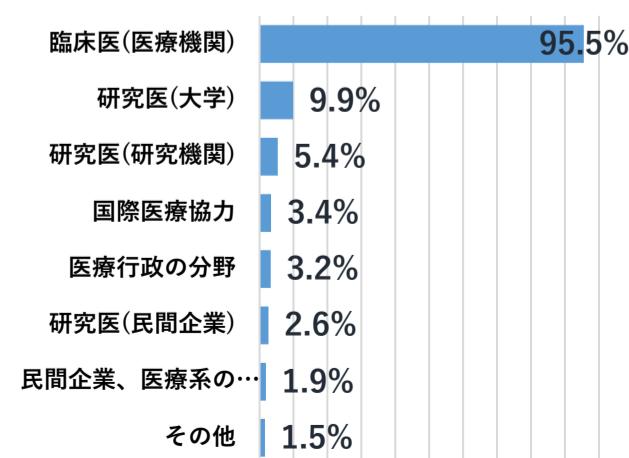
政府が提唱しているコンセプト「Society 5.0」は、現実の物理的空间とコンピューターやネットワーク上で構築される仮想空間を高度に融合させて社会的課題の解決と経済発展を目指す社会のあり方を示しています。これに対応する形で大学においても教育 DX が推進されています。授業・学習に関する具体例としては、コロナ禍で全国的に普及したオンライン授業の導入があり、それ以前にも医療系教育では教科書や資料のデジタル化、e ポートフォリオの導入、共用試験のオン

ライン化（CBT）などが挙げられます。変わりゆく状況を後追いするに留まらず、来たる社会で活躍するために必要な知識や技能を予測して学生に教授することが重要なのは言を俟たないのですが、授業・学習におけるデジタル化が学修者に与えるプラス／マイナスの影響は未知の部分が多いのも実情です。大学教育の現場では、学生にとってリアルとサイバーのバランスが取れた適切な学習方法や環境を日々の実践と研究の往復を重ねることにより探っています。

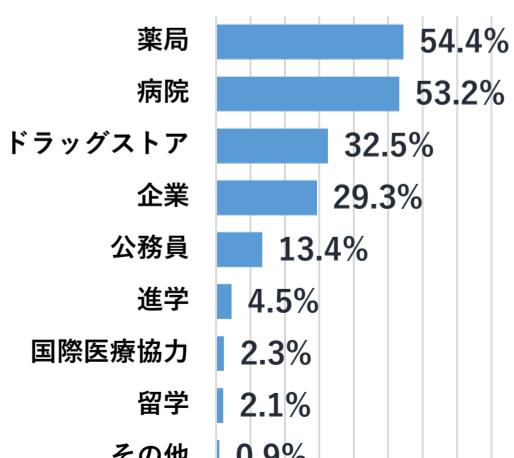
## 卒業後の希望進路

医療系大学では、入学時に卒業後の進路がほぼ決定しているように思われますが、たとえば、医師、薬剤師、看護師・助産師・保健師の資格で職業に就く場合でも、どのようなキャリアパスを辿ってキャリアを積むかは個人によって異なります。どういった目標や将来像を持った学生が入学して学修しているのかを知ることは、大学にとっては学生に提供する教育内容を考慮したり、教育特性にマッチする学生の募集を行ったりするうえで重要な手がかりになります。

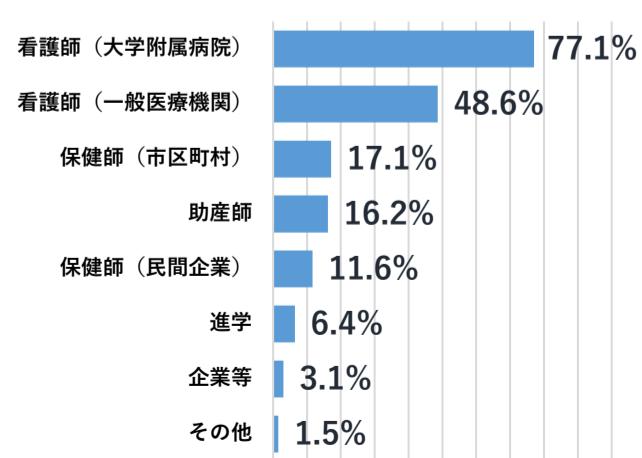
医学部全体



薬学部全体



看護学部全体



# 大学生活全般の満足度

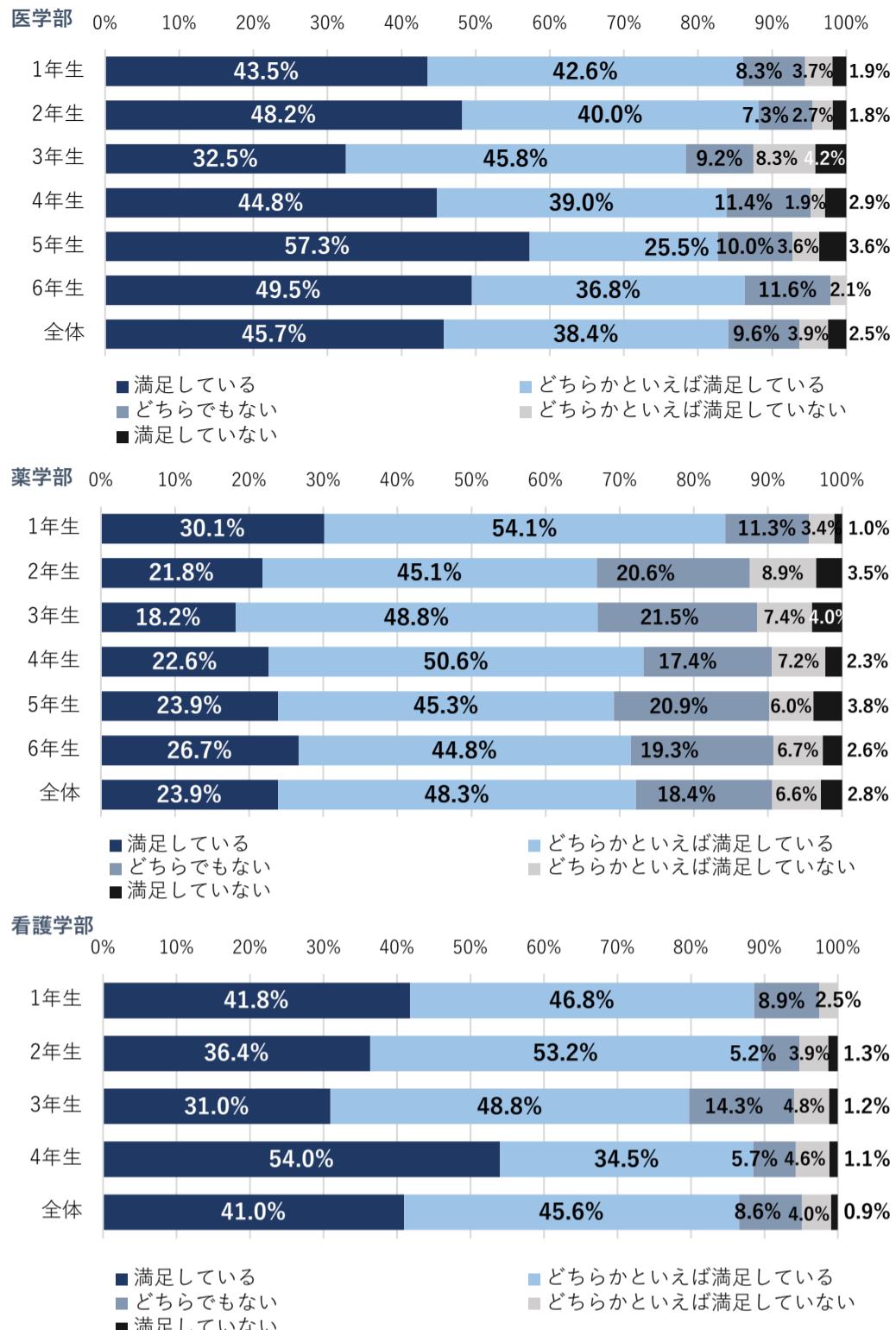
生活満足度とは、いまの生活にどれくらい満足しているかを自己評価する主観的指標です。一般的な例としては、GDPのような経済指標だけではなく、人々の主観的な満足度からも豊さやウェルビーイング（別の言い方では、Quality of Life）を捉えて国の政策に活かすこと目的に内閣府が実施する「満足度・生活の質に関する調査」があります。「大学生活全般の満足度」は、学修成果だけではなく、生活環境や学内外におけるさまざまな活動を含めた総合的な学生生活の質の評価と言えます。学生生活の中心は大学キャンパスになりますので、大学としては提供する教育や学生支援に対する総合的な評価とみなすことができます。

大学生活全般の満足度について学部全体でみると、医学部では「満足している」が45.7%、「どちらかといえば満足している」をあわせると84.1%（前年比+5.6ポイント）の学生が満足していると回答しています。

薬学部では「満足している」が23.9%、「どちらかといえば満足している」をあわせると学生の72.2%（前年比+2.7ポイント）が満足していると回答しています。

看護学部では「満足している」が41.0%、「どちらかといえば満足している」をあわせると学生の86.6%（前年比+4.1ポイント）が満足していると回答しています。

満足度の年度比較における5ポイント程度の増減はほぼ横ばいとみなされますが、前々年度と比較すると薬学部と看護学部では比較的満足の回答割合が10ポイント程度上昇しているので、医学部の満足度は安定、薬学部と看護学部は上昇傾向にあると言えます。全体としては、本学に入学して学生生活を送っていることに満足している学生が多数です。



## 事例解説 学生調査の活用による教育改善

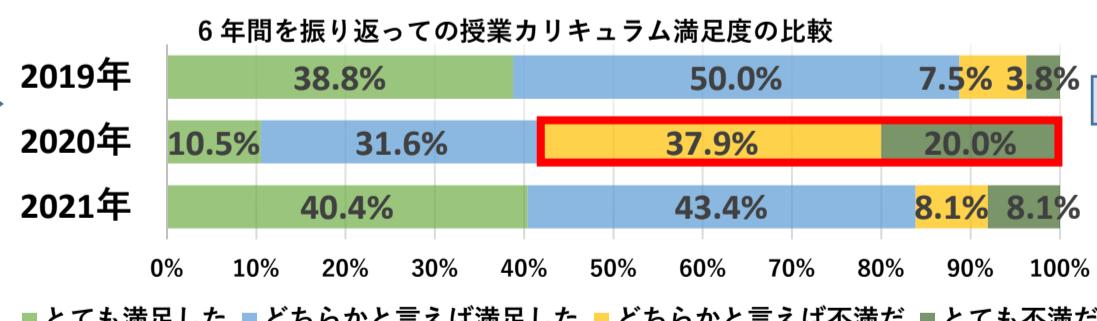
学生調査の集計結果は、各学部の教育センターと学生生活支援センターに送付され、各センター、さらに学部での自己点検・評価に活用されています。その際、IR室では過年度との比較分析を行っており、とくに前年比で15ポイント以上の極端な差が生じた項目については原因の検証が必要であると指摘します。各センターでの検証でさらなる分析が必要とされた場合、センターとIR室とで相談して、さらに立ち入った分析を行う場合もあります。

一例として医学部における「授業カリキュラムの満足度」の活用を紹介しましょう。2019年度卒業生の医師国家試験の新卒合格率

は85.6%とかなり低い結果でした。原因究明の分析は入試から卒業までの各種成績の関連をはじめ多岐にわたりましたが、学生による「授業カリキュラムの満足度」の年度比較も重要でした。この満足度を前後の年度と比較するとカリキュラムに不満を感じている学生の割合が際立って高く、この学年で実施されたカリキュラムのあり方に問題があった可能性を示唆しています。この結果は他の分析結果や聞き取り情報とあわせて医学教育センターでの検証に用いられ、授業のあり方、試験の実施方法、支援の仕方などの見直しが行われました。学生調査を通じて示された学生の意見が、カリキュラム改善に反映された事例と言えます。

国家試験新卒合格率	
2019年	100.0%
2020年	85.6%
2021年	97.3%

原因究明の検証材料のひとつとして  
学生の評価を参照



カリキュラムの見直しへ  
学生調査を通じた  
学生による評価を  
反映

## 大阪医科薬科大学 学生調査

### 「キャンパスライフ・レポート」

2022～2024年度版を以下のサイトでご覧いただけます。

[https://www.ompu.ac.jp/campuslife/common/ompu\\_survey.html](https://www.ompu.ac.jp/campuslife/common/ompu_survey.html)

